

報 告 Report

ものづくり大学花手水プロジェクト

— 第 27 回 R&R 建築再生展 2023 における展示 —

原稿受付 2024 年 7 月 31 日

ものづくり大学紀要 第 14 号 (2024) 53～56

三崎敬音^{*1}, 清水俊輔^{*2}, 松本修弥^{*2}, 大竹由夏^{*3}, 永井孝^{*4}, 三井実^{*4}^{*1} ものづくり大学大学院 ものづくり学研究科 ものづくり学専攻^{*2} ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 卒業生^{*3} ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科^{*4} ものづくり大学 技能工芸学部 情報メカトロニクス学科

キーワード：建築再生展，花手水，空間設計，イベント

1. はじめに

本学では，例年「建築再生展」に出展をしている．2023 年は大竹研究室が展示を行うこととなった．2022 年に行った「行田市花いっぱい運動」と 2023 年 10 月に実施された「花手水プロジェクト」，「プロジェクトマッピング 〜ル・コルビュジェ小さな家実寸レプリカ〜」の進捗についての展示を行った．本報では，2023 年 5 月 31 日，6 月 1 日，2 日に開催された「第 27 回 R&R 建築再生展」にて展示した内容について報告する．（写真 1）

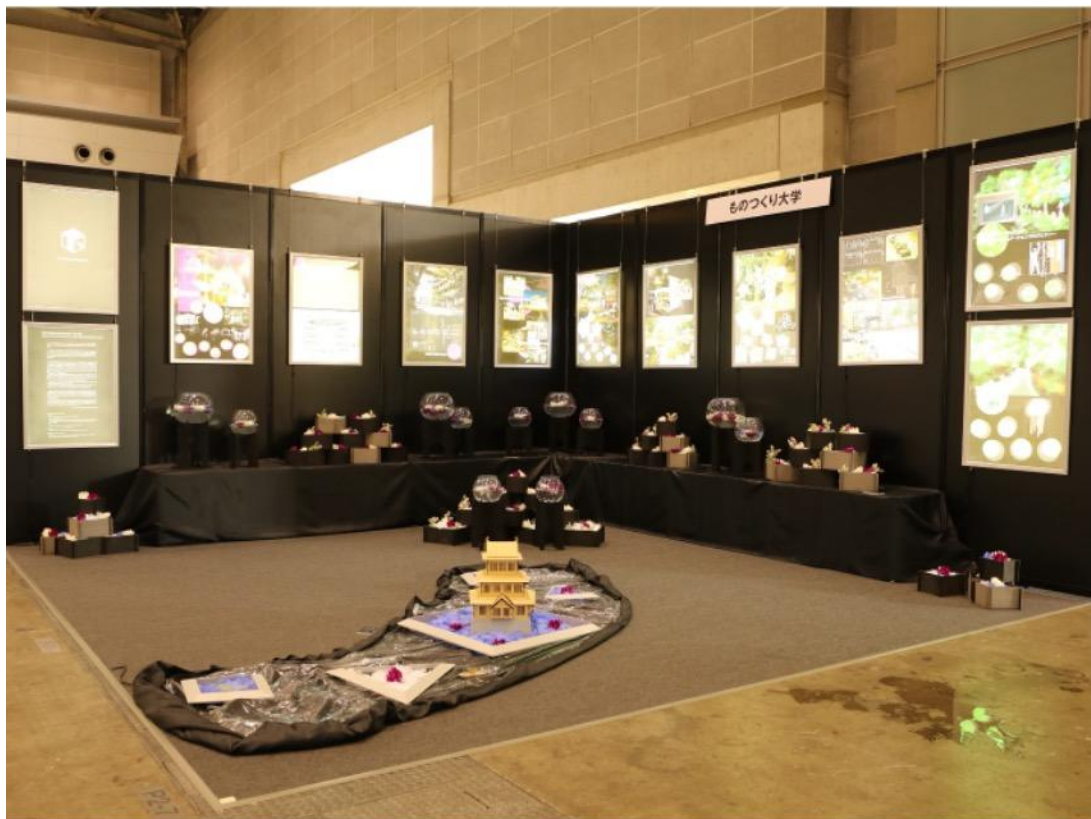


写真 1 ブース展示風景

ものづくり大学花手水プロジェクト
— 第 27 回 R&R 建築再生展 2023 における展示 —



写真 2 展示計画に関するスタディ模型



写真 3 教室を用いて実際のサイズでの検討の様子



写真 4 水城彩花用の池の制作の様子



写真 5 花枠灯籠の組み立ての様子



写真 6 花手水プロジェクトの設置の様子



写真 7 水城彩花に用いた忍城模型



写真 8 展示した花の様子

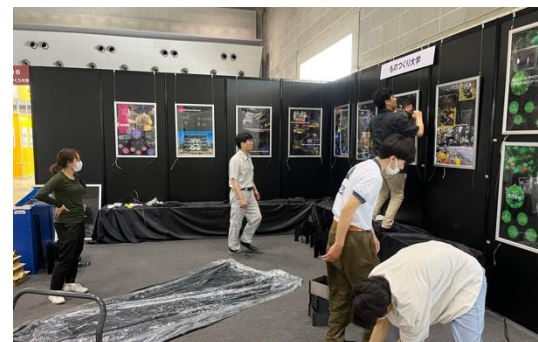


写真 9 展示パネルの設置の様子

2. 展示スペースについて

展示スペースに関しては、展示内容の全てに関連があるために、ブースの全てに統一感を持たせた。

花いっぱい運動とプロジェクションマッピングが夜のライトアップを想定した物だったため、内装の床と壁を黒にして内装設計を行った。

パネルは全て壁に配置し、花手水と花枠灯籠はパネルの下に展示物を配置した。水城彩花は透明なシートを床に敷き反射している水面に見立て、その上に池の上で配置していた古墳などのオブジェを展示した。また、再生展での展示前に、本学の教室を使い、実際のサイズで、展示空間の検討を行なった。（写真2～9）

3. 展示内容の詳細

3.1 「花いっぱい運動」

2022 年度に行った行田市内の花き農家の事業継続につなげるための支援プロジェクトについての展示。「花飾建築」、「水城彩花」、「花枠灯籠」の3つの内容に分割される、

3.1.1 「花飾建築」 行田市内で生産されたポット苗を用いたフラワースポットの制作を行った。単管を使用したフォトスポットのため、規模が大きく展示スペースに収まらないため、本展示内では、4枚にまとめたパネルを展示した（図1）。

3.1.2 「水城彩花」 3Dプリンターやレーザーカッターを用いて制作した忍城や田楽踊り、古墳などのオブジェと花と一緒に、忍城の小径に浮かべてライトアップした。水城彩花は、忍城の小径に池にスタイロフォームで作った枠の中にレーザーカッターを用いて作成した。本展示では、池を再現するために黒い布を敷き、その上に透明なフィルムを置いた。シワを伸ばさずに置くことで水面を表現した。

3.1.3 「花枠灯籠」 忍城址公園内の門前広場で展示を行った。多数のプランターを設計・制作し、花を展示することで閑散とした門前広場を彩った。花枠灯籠は4種類のプランターを組み合わせることで様々な形に対応できることから実際に使っていたものを展示に使用した。4種類のプランターはスタックが可能になっているため、運搬も容易に行うことができたのでそのままの形で展示することができた。ここで使用する花は、生花を使用すると3日間の維持管理が容易ではないことから造花を用いて展示を行った。造花は茎の部分がないものを使用した。そのため、花の高さが不自然ではない位置まで上げることのできるようにプランターの内側にスタイロフォームを入れた。

3.2 「花手水プロジェクト」

2023年10月28日、29日に開催された学園祭「碧蓮祭」にて展示予定の花手水を用いた空間設計についての展示を行う。

花手水プロジェクトは再生展開催時の進捗として、花手水に使用する容器を下から光を当てることのできる金魚鉢を使用することと、MDFを用いてスタンドを製作するということが決まっていた。スタンドの形は製作途中のものを用いた。こちらの展示物も「花枠灯籠」と同様に生花の使用が困難だったため、造花を用いた。こちらは金魚鉢に水を入れて造花を

浮かべることで花手水としての展示をしようと考えていたが、造花が水に浮かないことがわかった。そこで、金魚鉢の中を透明な消臭ビーズで満たし、そこに水を入れることで下からも見えるくらい透明になる。その上に造花を置くことで横から見ても花が見えて、光とのつながりを演出することができた（写真1）。

3.3 「プロジェクションマッピング 〜ル・コルビュジェ 小さな家実寸大レプリカ〜」

上記の「花手水プロジェクト」と同時に展示をしたプロジェクションマッピングについての展示を行う。

プロジェクションマッピングのプロジェクトに関しては、プロジェクトを担当する学生が書いた数枚のイメージパースをもとに2枚のパネルを展示した。プロジェクションマッピングと花手水は同時に展示する予定だったため、パネルには2つのプロジェクトをまとめた。（図2）

謝辞

「行田市花いっぱい運動」は、行田市農政課とテクノ・ホルティ園芸専門学校の協力により取り組んだ。

「ものづくり大学花手水プロジェクト」は、2023年度ものづくり大学教育力・研究力強化プロジェクトにより取り組んだ。この場を借りて深く感謝の意を表する。



図1 花飾建築に関するパネルの一部



図2 花手水とPMに関するパネル